



長野県No.1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

着果量や、摘果作業の早晚で玉伸びにバラツキがあるものの、早い収穫の品種ほど、全体的には小玉傾向となっている。梅雨時期の降雨もあり、川中島白鳳以降の品種は、玉伸びを期待するところだが、核割れ果も多いため、特に弱樹勢や老木樹での収穫序盤は取り遅れに注意し、果肉硬度や地色で判断し適期管理・収穫を行う。

1. 本格的な収穫時期となる。各品種の適期収穫に努める。

着色先行の品種は、特に注意したい。着色より熟度優先で収穫し、ロス果を減らす！

2. 高温が続いた場合の急激な乾燥に注意する。

乾燥し過ぎている場合は、収穫間際でも、軽い散水を行う。

長期の曇天降雨で根が弱っている所に、高温に当たると樹が衰弱しやすい（特に排水の悪い園）5～7日程度たって降雨がなく弱っている樹には、かん水を行い樹体の保護を行う。

特に朝になっても葉が萎れていれば要注意。

盆後以降収穫する品種は、干天が続いたら20～30mm程度のかん水を行なう。

3. 配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。

総合的な品質向上対策として、アミノ酸等の友果（500倍）、ケルパック66（500～1,000倍）、オルガミン（1,000倍）、モーニングシャイン（1,000倍）等を利用する。

特に曇天降雨が続き、糖度が低い・根が傷んでいる場合は積極的に活用する。

4. 果実が重くなり樹に負担がかかっている。風で枝倒れしないように支柱等を行う。

枝が折れた所は、きれいに切り取りトップジンMペーストの塗布を行う。日当たりが良すぎると傷口が治りにくいので、ワラ等で覆う。

◆除袋目安と管理について

1. 生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育は遅れ、曇天多雨で生育は進む)別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。

2. 除袋時の注意

①除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化が早くなるので、注意する。一般的な桃は、下記の図1を参考にし白っぽく淡い緑色になる頃が目安です。果実全体の地色が抜けた状態ではやや遅い。

②水野ネクタリンは果実全体が黄色くになったら除袋する。

③大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に数回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。

④もも二重袋を使用したものは、3日程度早めに外袋のみ除袋する。

⑤除袋時に、曇雨天が続くような場合は、除袋時期の目安より、2日程度早めに始める。

⑥老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。

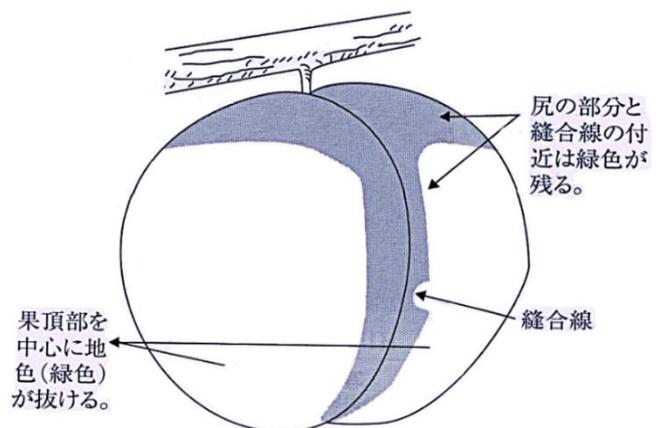


図1 果実の除袋目安

3. 着色管理

- ①葉つみは、着色ムラをなくすため果実に密着している葉を摘む。1果当たり5枚程度限度とする。摘み過ぎないように注意する。摘み過ぎは、着色・糖度に悪影響が出やすい。また肌荒れ・日焼け・軟化等、品質低下になる場合がある。※もも二重袋を使用した場合は、葉摘みはしない。
- ②反射シートは、有袋品種で、除袋直後から使用する。無袋品種で収穫予定日の10～14日前位から使用する。概ね着色したら軟化防止のためシートを外す。
- ③支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。
- ④着色先行となり、早採りを助長するので、熟度をよくみて判断し収穫する。

4. 除袋時期の目安（あくまで目安です。今後の気象条件・自園の状況に合わせる）

<p>本年は、バラツキが大きい！袋中の果実をよく確認して！</p>		
品 種	時 期	目安の指標
川中島白桃	8月初旬～上旬	<u>収穫7～10日前頃</u>
秀峰	8月上中旬～中旬	

※目安の指標：着色が容易な品種ほど除袋は遅めに。着色が困難な品種ほど早めとする。

◆もも・ネクタリン収穫前薬剤散布について

[1回目] 《実際散布日記入 月 日》

1. 散布時期：有袋除袋後又は無袋着色始め（収穫7～10日前頃）
2. 調 合 量：水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
スクレアフロアブル	3 3 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
アーデントフロアブル	5 0 mℓ	モハモリガ・ミカンキイロアザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

[2回目] 《実際散布日記入 月 日》

1. 散布時期：収穫開始2日前防除 ★降雨が多い場合は、非常に重要な防除。
2. 調 合 量：水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
(デ ィ ア ナ W D G)	2 0 g	ミカンキイロアザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで
オンリーワンフロアブル	5 0 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで

[1・2回目共通事項]

3. 散 布 量：10a当り ⇒ 500ℓ 以上

2)留意事項

- ①「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫する24時間前までに散布が終わる事を意味する。
- ②果柄部へも丁寧に薬剤散布を行う。
- ③除袋直後（ほとんど果面に日照を受けない状態）は、薬害（褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良）が出やすいので少なくとも1～2日程度は日照をあてて散布する。
- ④腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。
- ⑤ミカンキイロアザミウマ、シクイムシ類、ハマキムシ類の発生が心配される園は、『収穫開始2日前防除』にディアナWDG5,000倍（水100ℓ 当り 20g・収穫前日まで）を加用散布する。
- ⑥スクレアフロアブルも代えて、ミギワ20フロアブル 4,000倍（水100ℓ 当り 25mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。
- ⑦オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 2,000倍（水100ℓ 当り 50 mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。

【もも薬剤防除】 ※もものみ

◆白根白桃以降の桃極晩生種の(特)薬剤散布について

1. 散布時期:8月3日(土)～7日(水) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

3 .

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
ダコニール1000	100ml	灰星病	前日まで
ディアナWDG	20g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

散 布 量:10a当り⇒ 500ℓ 以上

4. 散布上の留意事項

- ①今回の防除は、極晩生種の定期散布として行い、収穫中のもも・ネクタリンに飛散しないよう十分注意する。
- ②ダコニール1000は、除袋直後に飛散すると薬害を発生する場合がありますので、十分注意する。
- ③ダコニール1000に代えて、オンリーワンフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ に 50ml・収穫前日まで)を使用してもよい。

◆収穫中品種の腐敗病防止対策について(もも・ネクタリン共通)

果実腐敗病の被害果は、発見次第胞子が飛ばないように除去する。

被害果が樹上にあると降雨で被害が拡大するので、早急に除去し土中等に埋めて処理をする。

◆川中島白桃の収穫講習会について

下記の日程により講習会を開催します。適期収穫・品質目揃いを統一する大切な講習ですので都合のよい会場で受講ください。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8月 9日	金	午前 11:00	今井神社	松橋
		午後 2:00	JA川中島支所	松橋
		午後 3:30	御厨 斗女神社	松橋
8月11日	日	午前 11:00	西部流通センター	徳武・寺澤
			東部流通センター(荷受場)	外谷
			松代総合センター	伊藤
			若穂営農資材センター	松沢
		午後 2:00	塩崎共選所	徳武・寺澤
			東部流通センター(荷受場)	外谷
若穂果実流通センター	松沢			
8月12日	月	午前 11:00	青木島支所	根津
		午後 2:00	真島フルーツセンター※車は東奥へ	根津

なお、講習会以降が収穫始めではありません。適熟になったものは、講習会以前でも荷受致します。また、未熟な場合は、適熟になってからご出荷下さい。